

## 解答

一

- 問一 ① オ ② イ  
問二 わなにはまって、団員をにせの道に誘導したこと。  
問三 ウ  
問四 本式なけんかを避けられそうだから。  
問五 そのたい  
問六 がき大将  
問七 ウ

二

- 問一 自分を発見する場  
問二 評価  
問三 問題は、そ  
問四 オ  
問五 親の過保護や干渉過多を避けて、生きていくうえで必要な基本的なことを学ぶことができるから。  
問六 受け身  
問七 ア

三

- ① ぞうきばやし ② ぎょそん ③ こうみょう ④ まか〔せる〕 ⑤ こころよ〔く〕  
⑥ 標識 ⑦ 準備 ⑧ 慣習 ⑨ 裁〔く〕 ⑩ 耕〔す〕

## 解説

一

- 問二 本文のはじめに着目します。西吉倉海洋少年団の全員が手紙を読んでいるため、わなにひっかかって、山頂への道を間違え、にせの道にさそいこまれたことを、みんなに知られたことがわかるので、これらの内容をわかりやすくまとめます。  
問七 本文から、一郎と明がそれぞれに地域をまとめる良いライバル同士であり、お互いに本式のけんかを避け、行動を楽しみにしている様子がわかるので、選択肢ウが選べます。

二

- 問五 直前で「放つといて！」と言われても、放っておけないのが、親の側のどうしようもない気持ちであり、親の気持ちを尊重しすぎると、過保護や干渉過多を起こすことが述べられています。”ほどほどに放っておかれる状態”にすると、それぞれの問題点を避けることができることがわかることから、「親の過保護や干渉過多を避けて、生きていくうえで必要な基本的なことを学ぶことができるから。」という内容をまとめます。  
問七 本文中盤にある「感じ、考え、自分なりの結論を探していく。そういう訓練がなされていたとき、人間の適応性が生まれてきます。」という記述から選択肢アが選べます。